

061 戦記

艦長 徳富利貞大尉 (戦死)

出所 二正内門 義雄 (電信員) (浮城より帰還)

奔航地

樺根岬

十七年七月二十四日

沈没年月日

十七年九月一日

今石場所

アトカ島、アトカ島、ナガン湾口

爆雷攻撃及砲撃より沈没

他、生存者氏名 水陸田大藏 植田健 山下幸雄

戦年記

昭和十七年八月二十八日

午後五時味方水戦偵察隊依りアトカ島ニ水上積母艦ヲ見キ大型軍艦

駆逐艦ニ補給中ヲ発見 攻撃命令本艦ニ下リ午後五時半頃決死ノ

覚悟ヲ勇躍出港ス

八月二十九日

午前八時頃東方ニ向テ進軍中(強速)敵大艦ノ同航スルヲ見
直ニ發射ス 敵大艦ハハニ氣ツカス 五十分後灣上ニ退行ス
八月三十日

午前二時頃「ア」島着 同島前ニ完全ニ夜明ケ迄ニ浮上偵察 午前
五時頃潛航 同島灣口ニ接近ス 午後四時半頃灣口附近偵察中
敵旧式駆逐艦(四本煙突)灣内ヨリ出港シ来ルニ依リ之ヲ避退ス
八月三十日

前日ト同様灣口附近ヲ哨戒 時刻五時頃敵ハ灣口ヨリ出テ来ル
航路ニ防潜網ヲキリ船長確信シ同所ニ待受ケ敵ハ反航 艦底通過
ヲ行ヒ侵入ヲ開始セリ 全艦ノ士氣此時ハニ旺盛ナリ
海ニ霧アリタルニ依リ発見困難ナルモ数分ニテ敵ヲ発見 直ニ魚雷發
ヲ開始ス 敵ハ甲巡ハ一サヤポン型ニテ巨艦約二十 齊射雷數二本
ニ本目ノ魚雷艦橋後部附近ニ命中セリ 艦長ハ更ニ第二回目ノ襲撃ヲ

第二復員省

企シルモ 復五度ニシテ 敵巡鎗ヲヤリ 本艦ニ上ラ陸工方ニ通過セリ (此時鎗鎖ナシ 右艦
 前部ヨリ右艦後部ニ摩接音セリ 霰射管空ニ防濠網ト思ハリ)
 第三回目ハ 敵巡陸ニ坐礁セシ所ヲ攻果スモ後少シ所ヲ敵以前方ニ来位ノ所ヨリ 本艦
 方ニ安進シ来ルニ依リ 艦ハ 敵巡ニ沈没ヲ確認スル事出未ズ 濤外ニ向ケ 其ノ陽回頭
 避退ス 此ノ時ハ 海上モ暗クナリタル爲 再度ノ襲撃ニ困難ナリ 濤外ニ脱出
 ハ 浮望鏡露出ハ 敵ニ奔見セラル、恐アルニ依リ 船トモ 破壞保護ニ依リ 脱出ス 時ニ
 午後六時頃ナリ 脱出後 濤航(時向)程ニシテ 浮上 急速充電 補氣ヲナス 十時頃
 敵ハ 本艦ニ味方 識別ヲ送り来リ 本艦 濤航ス 同以ハ 哨戒艦 如キモ 本艦正上ヲ
 数度通過スルモ 爆雷攻撃ヲ行ハズ 濤航後 一時間程ニシテ 浮上再ハ 補氣充電ス
 艦長ハ 明日モ 濤内ニ侵入 前方ノ 襲撃ヲ 確認シ 若シ未ダ 沈没シ居ルニ 時ハ 再ハ
 襲撃スルトノ言ナリ
 尚本日ノ 襲撃ハ 直ニキスカ島ニ 通信スル 府署ニテ 再三 送信モ 我電報ヲ 解カズ
 僅カニ 口邊ヨリ 哨兵ノ 報ヲ 中継シ来ルノミナリ キスカ島ノ 威度 了スル

第二復員省

九月一日

午前二時頃充電完了 午前三時半頃 潜航速力最微速 午前四時五分頃 前部 爆音 音なきニアリ 此の時 司令所 深度計 八米程ニシテ 潜航不可能ナルニ依リ 艦ハ直ニ浮上 見張員 艇務ニエシ 空ハ快晴ニシテ 頭ニ敵大型 中直ニ爆弾ヲ投下シ来レリ 本艦ハ 望遠鏡ニ后ニ依リ 直ニ急速後進 潜航セリ 爆音 音四 最至近 碎ミテ 破片ハ 構造物ヲ 多数 落下セリ 高同 様ニ 機銃 掃射モ 行ヘリ 被害 状況ハ 電動 機室 左舷 中部 上部ノ 内蔵ノ ナラシ 弛ミ 小指 程ノ 太サニ 浸水ス 艦内ノ 雷灯ハ 後部ニ 殆ド 破壊シ 昼光灯ノ 欠アリ 高機 械室ニ ハツケ 爆音 音アリ 用テ 浸水セル 水花 音アリ 閉カレ 以テ 欠ニ 入ラズ 之ヲ 固持セリ 又 一番 潜望鏡ハ 前部ノ 油圧ポンプ 故障ニ 露出 出来ス 高後部ノ 浸水ハ 甚ク シリニ 影響 留シ 潜航 状態ハ 漸次 悪化 深度 三十米 位ヨリ 五十米 位ヲ 下トス 事 甚ク シク 機械 室 後部ノ 要具 箱等ノ 重量 物ハ 全部 準備 魚雷 室ニ 移動 セリ 之ニ 約 一時 間ヲ 用ス 午前 四時 次直 交代 此頃 電動 機室ニ テ 艦内ニ 入りシ 海水ヲ タンクニ 移水スル 時

第二復員省

嘴ノ切換ヲ間違ヒテ、妙ノ之ヲ艦外ニ排ガセリ
 敵又 撃命後之ヲ発見シテ一回、爆雷攻撃ヲ開始セリ此ノ時六時十分頃 艦 此ノ爲
 激動シ艦内ノ電灯ハ全ク灯ヲ滅ス外全無消滅セリ 艦ノ前進全速45ノ浮度
 30^m之ヲ回避ス又艦長ハ最後ヲ予期シ砲員 齊令所ニ集命ヲ發命也
 被害 状況ハ雷池破損セルノ一カニ發命セルニ依リ之ヲ除去ス 又彈庫後部
 ヲリ煙奔生(個所不明) 艦内ニ充滿シ来ルニ依リ彈庫ニ注水セリ 此時ハ七時
 七ノ彈倉ヲ15 砲員ニ配分シタル後ナリ
 才直日 五時三十分頃 艦ハ益々危殆然態 早リ砲員ハ 橋鏡ノ彈倉ヲ作業
 服ぬニ入レ待タス 尚 艦長ハ「最後迄頑張ル」ト令セル 然レテモ 艦内之
 ノ潛航ハ不可能トナリ(空氣ハ浮上ノ時便フ分ケテト雷池ハ二三時用分ケテ
 ヲテオレリ) 尚 艦ハ40位ノ傾斜ヲ艦内ノ作業ハ困難ナリ
 第三回日 六時三十分頃 敵ノ爆雷投下ノ上同時ニ急速浮上砲鏡ヲ敢行ス
 砲員 機銃員ニ号志ニ出シ之ヲ砲鏡ス

浮上後直々ニ機銃甲意ノ命下ルニ機銃室浸水ト機銃先任中川兵士出テ来レリ
 總員ニ揚レ、号令下ル機橋伝令ハ此時敵弾命中セルノ如ク「總員」ニ
 テ途切レテ判明ナリシニ船長、声ヲ再度總員ニ揚レ、号令アリタリ、依ツテ各所
 士官室機銃室ニ及ニテアリタルノ如ク船橋ニ上ル敵弾ハ此時船橋ニ命中
 サレ、最初ニ上リ見者リ船橋ハシテ附近ニ負傷者々々ハ殺死セリ、奔射士官室、
 電動機室、予備機油室ハ船傾斜(45°)セル為、ハシテ南カニ、船刻々沈没
 シ、機銃室浸水ノ為(シラアル為)船長、再ニ總員遠去ノ号令ヲカケラル、此ノ時白
 分ハ船橋より水中ニ飛込、船、数秒後沈没セリ、船長、附近ニ大体
 マトマルモ潮流ノ関係アリ、ニテ凍死シテ行クモノアリタリ、自合、此ノ時
 先着(船長、杉尾司兵士、中川謀兵士、如久重兵衛、山下英二兵士、
 吉野重夫兵士、田辺茂樹兵士、外十名程アリタリ)
 以後ハ小生モ不明ナリ泳ギオリシ時向ハ約ニ十分位ト推察ス
 船橋附近ニテ殺死セルモノ(自合ノ見タモノ)船橋長伊藤勇吉、松崎兵士等

仰落

出所 丘古 小泉 操

船長 原田 亮衛 (戦死)

昭和十八年六月二十六日 上ラシク 葬 エスロリヤト 万重行動中

昭和十八年八月十八日 午後四時頃 ニーカレト等約又メヤ流陣三十理 浪没

初回 水中ニ有リ 最後 水平爆集七枚ノ中 爆弾 掛下ニ一枚

初回爆集目 約ニ時開ニ十秒結 即ニ浪没

被害の被害者一人ノ耳ニ入り 直ニ浪没

海上救助隊 船長上レ 逢 難者入レ 入ルナ

退艦信 約三四回 三十分 給突口噴 航ニ 始初ナル

機銃運 要 操作 用 謂ニシテ 艦ノ 傾斜 大ニテリ 俯仰 旋回 不能ト 云

奔砲 后 機銃 早 奔ニテ 前後 迄 奔砲ヲ 絶シ

135 潜

(出所) 一曹大畑重人 (撃射機員 油圧手) (浦野)

船長 海軍少佐 少本香男 (戦死)

所属

1538
155
6F

昭和十八年九月八日 呉弁 同十五日 上より着 同二十日 上より弁

沈没日時

昭和十八年十月三日 午後三時五十分

沈没場所

夕ラワ湾 口南方ニ理沖

敵駆逐艦爆雷攻撃及敵駆逐艦四隻 戦巡ニ隻 (ニ機、砲臺)

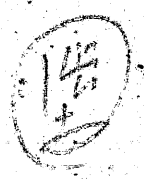
銃臺 係リ沈没

信部 兵室ニ浸水

救助艇

敵駆逐艦

新



30

9



一九四三年五月中濠洲東岸に行動せる帝國潜水艦名及同指揮官
氏名住所の件、回答

関係諸記録殆んど大部焼失し且潜水艦の喪失も多く調査
困難なるのみならず、調査期間に余裕少き為正確詳細なる
報告を提出し得ざるを遺憾とする次第にして取敢へず主として
一部の者の記憶を基き調査せり。従つて濠洲東岸
洋上²⁵⁻⁰⁵₃₅₋₀₅間の海域及五月一日より五月三十一日と云ふか始き正
確なる行動海域並に行動期間を限定し得ざるも概ね
右に該當するものと認めらるるものに関し別紙の通
作製せり。

第二復員省

別紙

一九四三年五月一日頃より五月末頃迄濠洲東方洋上に
 行動せる潜水艦名並に同潜水艦の所屬せる潜水艦隊
 司令官及同潜水艦長の氏名 現住所

潜水艦名(部隊名)	氏名	現住所
第三潜水艦隊	駒澤 克己	島根縣松江市石橋三〇二
伊十一潜	七字 恒雄	茨城縣東茨城郡鯉漕村六三
伊一七七潜	中川 肇	靜岡市水落町一丁目二六
伊一七八潜	宇都木 秀次郎	戦死
伊一八〇潜	日下 敏夫	第三号新興丸艦長

一九四九、三一、一六日附極東海軍指揮官より發せられた
米艦「ソーレース」號の攻撃に關する質問に對し回答

三月二十五日

第二復員局殘務處理部史實班

一九四二年十一月上旬ニュー・カレドニア附近よりエスピリツ・サンド方面に至る海域には日本海軍の水上艦船は行動して居なかつた。然しながら當時日本海軍潜水艦中の一部（イ9イ19イ121）は右海域を行動中であつて質問の本件は之等潜水艦中の一艦との間に惹起した問題と思はれる。

但し日本潜水艦の行動の詳細は不明であつて、本件が何れの潜水艦との間に惹起したかは調査の方法がない、尙附言すれば之等三隻の潜水艦は何れも二十五耗機銃を装備して居た。

「ギルバート」作戦ノ部（潜水艦關係）

◎一九四三年十一月二十四日〇五一三米特空母「リスコウム」ヲ撃沈
ル潜水艦名及其ノ説明

「マキン」島附近ニ在リシ伊一七五潛ハ

十一月二十五日〇一三五（日本時間以下同ジ）北上中ノ特空母反護衛
艦逐艦二隻ヲ發見〇二一〇特空母ヲ襲撃魚雷三本ヲ命中セシメ之ヲ撃
沈セリ、爾後驅逐艦二隻ノ爆雷攻撃ヲ受ケ若干ノ被害ヲ蒙リシモ航海
ニ支障ナク無事戰場ヲ離脱シ基地ニ歸還セリ

◎本作戦中喪失セル日本潜水艦。驅逐艦「ラドフォード」「ハ」「マキン」
北西一〇〇渾十一月二十五日二三一五 一隻撃沈セリ

本作戦中喪失セル潜水艦甚ダ多ク且何時何處ニ於テ喪失セルヤハ全ク
判断出來ザル情况ナルモ概要ヲ推定セバ左ノ如シ

参加潜水艦

イ19
イ21
イ35
イ39
イ40
イ169
イ174
イ175
ロ38

喪失潜水艦

イ19
イ39
イ40
ロ38

「マキン」北方又ハ「ギルバート」諸島東方

イ21

「タラワ」北方又ハ「マキン」南方

イ35

「タラワ」西方

何レモ十一月下旬ヨリ十二月四、五日頃ノ間

「アドミラルリテイ」及「ホーランデヤ」作戦（潜水艦ノ部）

◎一九四四年五月「エミラウ」島北方ニ於テ喪失セル日本潜水艦ノ情況
 一九四四年五月二十日頃ヨリ六月三日頃迄ノ間ニ於テ「エミラウ」島
 北方ニ配備セラレタル日本潜水艦九隻ノ内五隻消息不明トナリ一隻ハ
 損傷セルモ歸還セリ、喪失場所日時ニ關シテハ全ク判定シ得ザルモ當
 時潜水艦ノ行動シ又行動セント決定セラレタル概略ヲ示セバ別圖ノ如
 シ
 尚歸還セル潜水艦長ノ言ニ依レバ敵ノ潜水艦攻撃ハ主トシテ夜間航空
 機ニ依リ熾烈ニ行ハレ又哨戒艦艇及航空機ノ協同攻撃モ有效ニ實施セ
 ラレタルモノノ如ク哨戒艦艇航空機何レニ依リ撃沈セラレタルヤ判斷
 シ得ズ
 從ツテ質問セラレタル點ハ遺憾乍ラ明確ニ判明セザル次第ナルモ別圖
 ヲ判斷資料トナリ得バ甚ダ幸ナリ

◎一九四三年十一月二十四日のギルバート沖に於ける潜水艦の活動

艦名	出発地	出発日時	行動概要
伊一九	クゼリン	一八一・三	一八一・三クゼリン発 布哇方面に進出 一八一・一七 眞珠湾の飛行偵察を行ひ 一八一・一九 甲潜水部隊に編入せられ ギルバート方面に進出を命ぜらる。一八一・二以後 応答あり
伊二一	トラック	一八九・二五	一八九・二五トラック発 フライジ方面に行動す。一八一・一 スバ偵察を行ひ 一八一・一九 甲潜水部隊に編入され ギルバート方面に進出を命ぜらる
伊三五	トラック	一八一・二	一八一・二トラック発 布哇方面に行動中 一八一・一九 甲潜水部隊に編入され ギルバート方面に進出を命ぜらる。全艦は 一八一・二七 以後未連絡あり
伊三九	トモク	一八二・二二	一八一・二四以後連絡断絶あり 一八一・二九 甲潜水部隊に編入 一八一・二一 初め 停航 了。ギルバート方面に進出あり
伊一七五	トラック	一八一・一六	一八一・一六トラック発 一八一・二五 敵空母襲沈 一八一・二一 トラック 返着
呂三八	トモク	一八一・一九	一八一・二一 以後 呉呼に 応答あり

一六二八内地より上るウラに到着(新造艦)
二一九キルト進出を命ぜられた
甲潜水部隊(編成)

二
6F司令部の位置 トラツク香取

(一) 前項潜水艦には潜水水戦隊司令部は所在しなかつた。

前項潜水艦を以て編成された甲潜水部隊の指揮官はオニ潜水
隊司令海軍大佐 岩上英壽(伊一九潜水艦乗艦中)であった。

(三) タラワとは二十一日一三三〇以後 マキンとは二十一日〇四三〇以降通信連
絡杜絶するに至つた。夫以降の西島の情況は主として敵の通信に依
り判断した。タラワは二十五日マキンは二十三日夫々 全員戦死した
ものと判断された。

三

(一) 伊四〇は十八年十一月二十二日トラツクを出撃より無線連絡なきも命
令通りギルバート作戦に参加し敵の攻撃を受け沈没したものと
認められた。

マールボル群島の攻略作戦に於ける我潜水艦の行動状況。

西洋全葉十三行野紙 (鈴木納)

潜水艦名	行	動	概	要
伊一	一八・三・二二	エリス海島方面に移動	ハニー、ヌーメア、 マニラ、マニラ	任務
伊四二	一九・三・二二	エリス海島方面に移動	マニラ、マニラ	任務
伊一	一九・三・二二	エリス海島方面に移動	マニラ、マニラ	任務
伊一	一九・三・二二	エリス海島方面に移動	マニラ、マニラ	任務
伊一	一九・三・二二	エリス海島方面に移動	マニラ、マニラ	任務
伊一	一九・三・二二	エリス海島方面に移動	マニラ、マニラ	任務
伊一	一九・三・二二	エリス海島方面に移動	マニラ、マニラ	任務
伊一	一九・三・二二	エリス海島方面に移動	マニラ、マニラ	任務
伊一	一九・三・二二	エリス海島方面に移動	マニラ、マニラ	任務
伊一	一九・三・二二	エリス海島方面に移動	マニラ、マニラ	任務

五、

伊一丸 十八年十一月十七日 暹羅湾に偵察 (時機及状況は詳不明)

伊七 昭和十六年十二月十七日 眞珠港に偵察 (黎明時偵察 状況不明)

伊九 十七年二月二十四日 眞珠湾に (時機及状況は詳不明)

伊一九 十七年一月五日 偵察 (カコラウエ、S. 4より偵察)

伊三六 十八年十月十七日 偵察 (偵察成功)

期日十七日か
五、
威状を授けられた
布告を再調査すべし。

一七六

トランクの心丸口運にてと一と遭遇 (雷轟)
奥溜二本命中 雲沈確實

50-50'N
151-10'E
か
トランクの南の方であらうに在りは196に相違ない
も思います。

1. 7dg 曙、潮、連

2. 護身艦船 31号 駆逐艦

同伴艦船 富士丸

被害状況 和森、真島一本途中 中破

富士丸 小破

3. 7dg (曙) (潮) 連

(曙が敵機の攻撃を受け航行不能となり五十餘を以て
横須賀に帰航)

5. 17 16-12-17 真珠港 Y 須希

19 17-2-24 真珠港 "

19 17-1-5 " "

136

18-10-10 市陸救情Y 伝奉

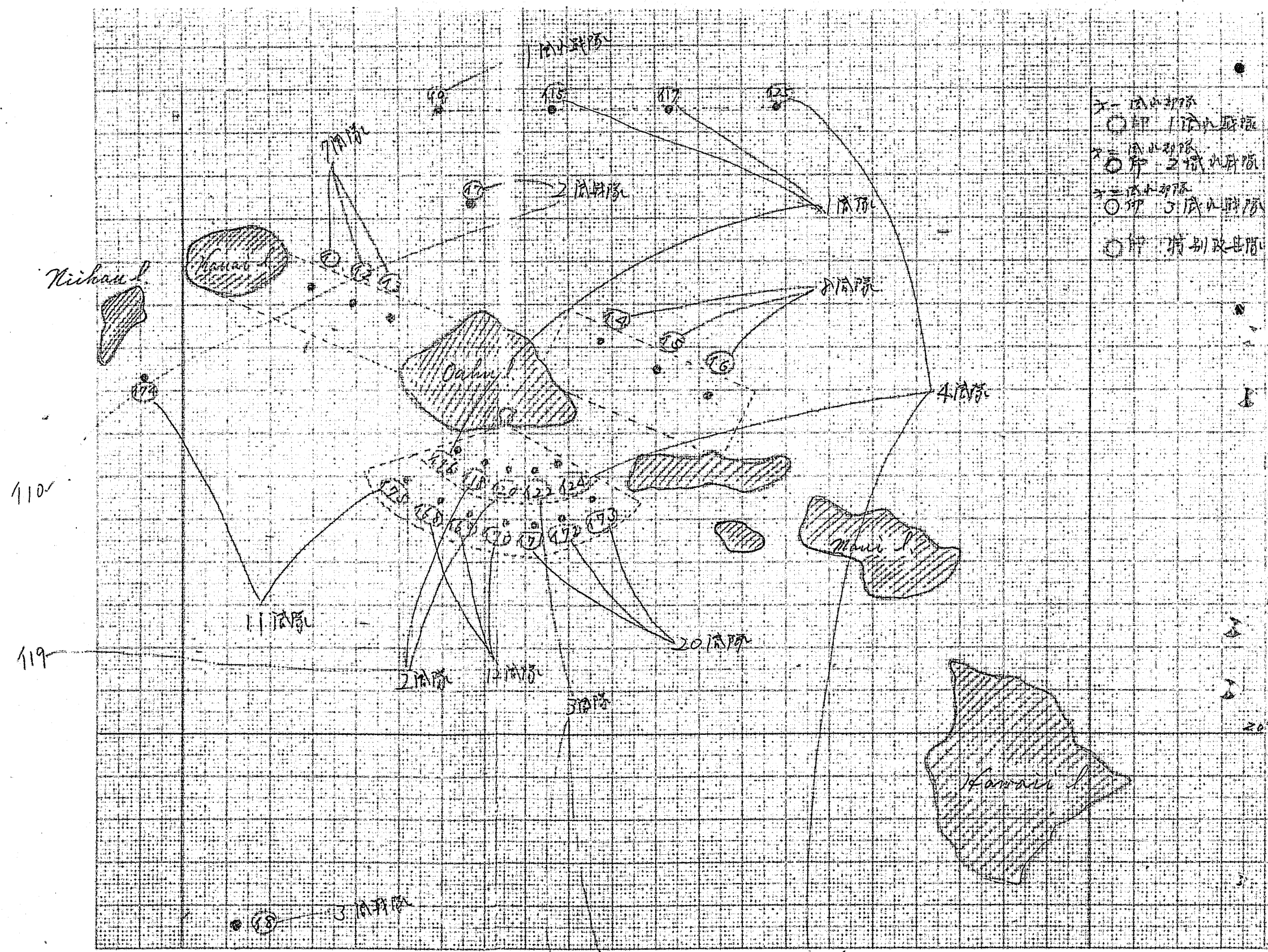
陸

四

6. 176

(トヲツツの心90 徑にて 立X / 2 運廻 傳奉)
要箇ニ奉 余中 其沈 確受

1570



110

119

日本標準局格A出

521 523

26

1571

6 艦隊

部隊	戦隊	艦名
水/潜水部隊	水/潜水戦隊(初)	19, 115, 117, 125, 119, 121, 123
水 "	水 " (次初)	17, 11, 12, 13, 14, 15, 16
水 "	水 "	18, 174, 175, 168, 169, 170, 171, 172, 173
特別攻撃隊		116, 118, 120, 122, 124
要地偵察隊		110, 126

(注) 119, 121, 123 艦は 機動部隊哨戒隊として IAF に所属して居ったが後に
水/潜水部隊に編入。

戦病編成 (6F麾下)

1 浪水戦隊 { 1 浪水隊 115, 116, 117
2 " 118, 119, 120
3 " 121, 122, 123
4 " 124, 125, 126
19.

2 浪水戦隊 { 7 浪水隊 11, 12, 13.
8 " 14, 15, 16.
17
110

3 浪水戦隊 { 11 浪水隊 174, 175.
12 " 168, 169, 170
20 " 171, 172, 173
18

1573

(巻10B)

七	一	五	四	三	三	二	一	九	八	七	六	五	四
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
=	=	-	=	=	=	四	三	=	=	-	-	-	-
-	-	六	=	=	=	=	=	-	四	-	-	-	-
		=	x							-			
		-	-										
四	=	六	九	九	=	-	六	五	-	三	八	=	-

fld

fc

pk f°

fd

fsr

四月八日附「ワッドワース」大尉質問ニ對スル山崎中將回答(三、五、五)

◎昭和十七年八月二十二日前後伊九潛對敵行動概要

一伊九潛(Pls)ハ當時麾下潜水艦ト共ニ「ソロモン」諸島「サンタクルーズ」諸島間ノ所定散開線ニ急行中ナリシガ八月二十三日(午前午後ニ亘リ數回飛行機ヲ發見シ敵機ヨリ二回爆撃(爆雷攻撃ナリシヤモ知レズ)ヲ受ケタルモ被害ナシ同艦ハ飛行機ノ外敵影ヲ見ズ

一右ト同日伊一七潛モ飛行機ヨリ攻撃ヲ受ケタルモ被害ナシ同艦モ水上艦艇ヲ認メズ

尙當時同海面(「ソロモン」諸島_{NE}海面)行動中ノ潜水艦ハ當戰隊ノモノノミナリシ(友隊潜水艦ハ「ガダルカナル」島附近及其ノ南方海面ニ在リタリ)ト記憶スルガ當戰隊潜水艦中敵艦ヲ襲撃セシモ

史實調査部

ノナシ

伊九潛ハ其ノ後八月二十五日（？）「ガダルカナル」島南東方ノ散
開線附近ニテ米主力艦襲撃運動中飛行機ヨリ發見セラレ次デ驅逐艦
ヨリ執拗ナル爆雷攻撃ヲ受ケ一時戰鬥力ヲ喪失スルニ至レルモ沈没
ヲ免レ「トラツク」ニ回航修理ノ上作戰行動ヲ繼續セリ

(終)

伊予島嶼、作部、行部及禮部 = 國公館 自來水供給部 (11月 1日)

(1) 1942年 8月 23~24日 前後、出動 (ソコニ方面)

19

117

122

其他同時機 = 「ソコニ」方面 = 出動 on 1

檢査状況 (同上時期)

(2) 19

117

122

(3) 同上艇、船長及幹部等、他生存者

昭和十七年八月三日於所ノ島ノ群島方面ニ行動セル
潜水艦名 任務 被攻撃ノ状況左ノ如シ

艦名	任務	行動及被攻撃状況	記事
伊九	ソロン方面敵部隊 捕獲要滅	八二五 被爆要 無被	中佐 藤井明義 一六、七、三一 一六、六、一五
	(第三次ソロン海戦) 八二五—八三〇	八二五 被爆要 被	一六、六、一五 戦死
伊一七	ソロン群島方面 敵KAB掃航索敵	八二五 被爆要 小破 被大	
伊一五		八二五 敵KAB発見報告 (ソロン方面)	

海軍

伊一九	ソロン群島南東	八三三	▽被爆岳 無被
	海面要地偵察	八二五	被爆 〃
	八二五—八三三		
伊二六	ソロン群島南東	八二七	▽被爆 小破
	海面哨戒及敵艦攻撃	八三一	〃 小破
	八二五—八三三		サラムカ型水雷一命中
伊三三	ソロモン方面敵艦攻撃	八二四	▽被爆 岳 ?
	南東敵艦偵察	八二六	〃 ?
	八二五—八三三		
伊三一	同右 監視偵察	八二七	▽被爆 岳 損有
	八二七—八三三		

海軍

伊一七五	ソロモン諸島方面 海面監視放棄	八三三・九三六	八三六午屯商船出沈	禮券 宇野島雄 一五八、上向太西岸 方面手我死
呂一〇〇	ソロモン諸島敵増援 船隻阻止要減	八三三・九三一		
呂一〇一	ソロモン方面哨哨砲 敵交通破壊	八二四 被爆改	八二七 爆改 無被	
(註) 伊二二番ハ	目 七三二 九一〇	横須賀泊 ソロモン	群島方面ニ行動ス	

海軍

伊五邊

八三五

敵KdB發見報告

ソロモン方面

伊一九邊

ソロモン

群島南東海面要地偵察

八二五
九二五

八二五
九一五
被爆島
無被
改票
リ

行動

八三六

KdB發見報告

八三七

中島要地偵察

八二八

ソロモン方面

八三九

中島要地偵察

八三一

又中島要地偵察

九一五

又中島要地偵察

第二復員省

一九四五年七月二十九日米國軍艦擊沈ニ關
スル伊五十八潜水艦ノ戰鬪經過概要

七月二十八日一四〇〇頃「パラオ」ノ二〇度四一〇渾附近ニ於テ大型油
槽船及驅逐艦各一隻ニ對シ回天發進後水上航走ニテ西方ニ移動中
七月二十九日一九五二視界不良ノ爲メ潜航中精密聽音ヲ行フモ感度ナク
月出後潛望鏡ヲ以テ觀測ヲ行ヒシモ目標ヲ認メズ二三〇五浮上（月出二
一五六、月齡二〇、六）直後十倍双眼鏡ヲ以テ東方月下ニ一見中央部ノ
高キ浮上潜水艦ラシキモノヲ發見急速潜航（深サ十九米）當時ノ目標方
位角零度距離約一萬米潜航直後ヨリ夜間潛望鏡ニテ捕捉ス、二三〇八
「魚雷戰用意」一回天戰用意」下令、取舵ニテ目標ニ向首襲撃運動ニ移
ル、目標ハ月ヲ背ニシ天象我ニ利アリ終始露頂觀測ヲ行ヒツツ近接ヲ待
ツモ目標種別判定出來ズ
二三〇九「第六射法」（魚雷六本用意）「戰鬪魚雷戰」一六號艇々長乘

艇」下令

二三一八「五號艇々長乗艇」下令其ノ間回天關係以外「爆雷防禦」ヲ實施ス

方位角零附近ニテ依然トシテ近接シ來タレルモ探信儀音ヲ受信セズ
攻撃ノ企圖ヲ有セザルモノト判斷シ依然トシテ向首中約三千米ニシテ右
方位角ナルコト判明同時ニ前後橋ノ狀況ヨリシテ重巡以上ノ艦ナリト判
斷ス、二三二六發射始メ、二三三二魚雷六本發射（合戰圖別圖ノ通）
發射諸元其ノ他

方位角右六十度、距離一五〇〇米斜進右二十八度、開度三度、射出時隔
三秒、調定深度四米、魚雷制式九五式二型、頭部制式二型一本、五型五
本、目標速度十二節直進

二三三三潛望鏡觀測中ニ魚雷命中一命中魚雷ニ依リ一番砲塔附近ニ火焰
發生大水柱三視認、二三三四命中音四聽取間モナク推進器音消滅艦ノ停

止セルヲ認ム、二三五一艦中央附近ニ閃光ヲ發スルヲ認ム

其ノ前後誘爆音ヲシキモノ十發聽取（中四、五發ハ魚雷命中音ヨリ大）
尙其ノ前後探信音ヲ聽取セルヲ以テ反撃ヲ蒙ル恐レアルヲ以テ目標ニ艦
尾ヲ向ケ離隔運動ヲ爲シツツ次發魚雷ノ準備完成ヲ待ツ中三十日〇〇〇
〇探信音爆發音消滅セルヲ以テ露頂觀測スルモ艦影ヲ認メズ直ニ反轉、
沈沒點附近ニ潛航近接セルモ目標ヲ認メザルヲ以テ〇〇三〇頃浮上ス
月明下視界良好海上少々波アリ、浮流物等ヲ認メザリシモ前後ノ狀況ヨ
リシテ撃沈確實ナルモノト判斷シ且護衛艦艇及警戒機ノ來襲ヲ考慮シ速
ニ其ノ場ヨリ離隔スルニ決シ北東方ニ水上十三節ニテ航走ス、約二時間
後飛行機ニ會敵潛航ス以後北西方ニ向ケ航行
水上離隔中八月一日〇一一五左ノ戰鬪概報ヲ發信ス

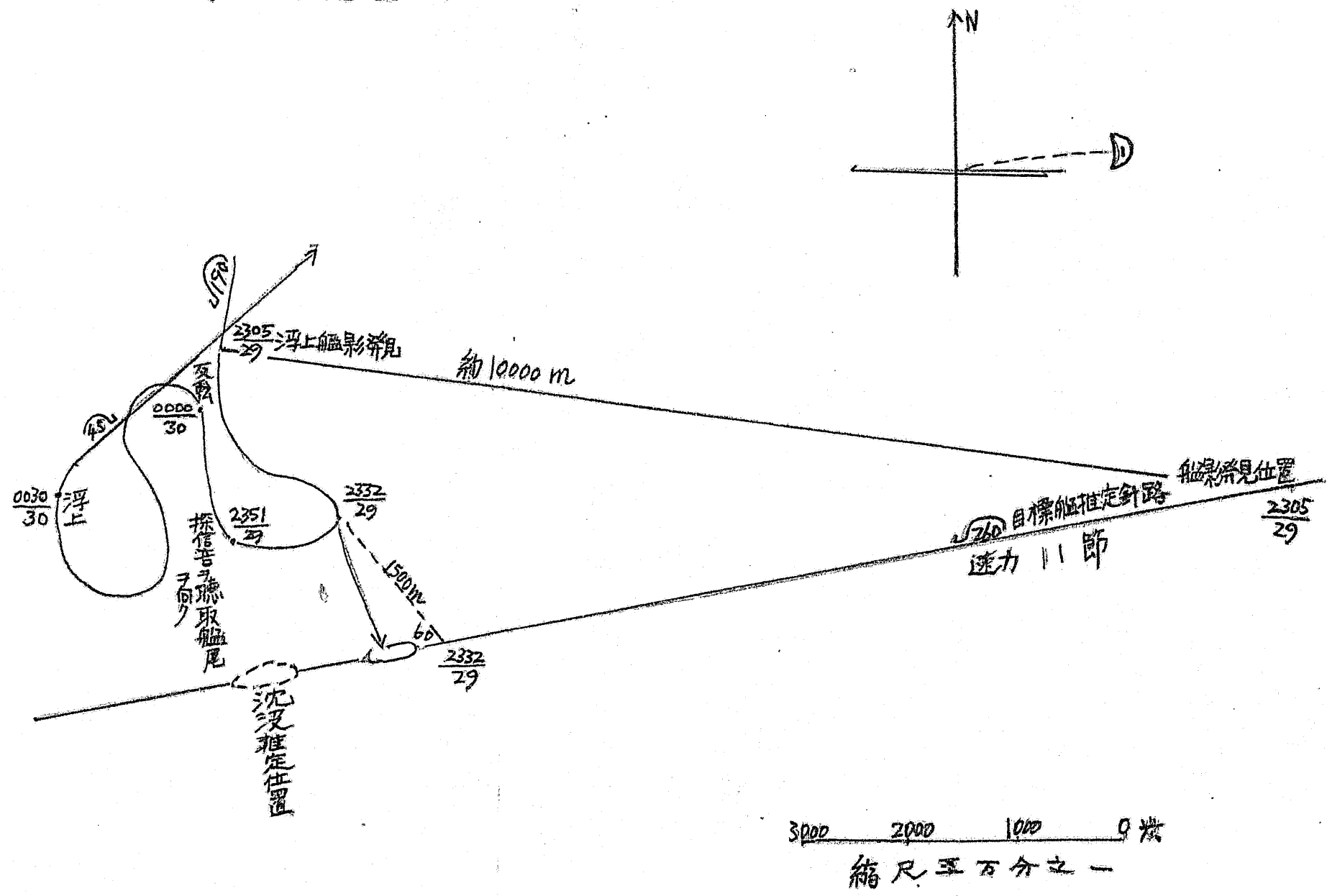
「本文 二十九日二三三三地點……ニ於テ「アイダボ」型戰艦一隻撃沈
（確認）魚雷三本命中」

當時水中聽音機ノ状態不良ニシテ三十米附近ニシテ始メテ捕捉可能ナリ
キ
何等有効ナル反撃ヲ受ケズ潜水艦ニ被害ナシ、回天ハ準備ヲ爲セルノミ
ニシテ使用セズ

(終)

伊号第五十八潜水艦 合戦圖

七月二十九日



2/3-4(月) NBC Folster 来訪 (海外中元 木下秀夫 37 6161-6165 同伴)
英文中元 毎保芸者 予取介物=15 町9色12北

1281

戸=隻 漁夫 釣魚中 下725外 浮水艇PII 突ツタ

毎7港キ3人後=ツキ コ177報告 ソナ7ハナイ船レトキムレタ

友人(左記号外軍人)カ南キ 免毛角モリツタ足タ。 浮水艇ハル外列08 爆雷ヲ落シ去タ。

戸=隻 網ヲ掛キ2人。網=1人。浅ク所=5人。在湖。...

爆雷=3枚落シ去レタラン 非常=浅ク所=5人。...

戸=隻 ムンレ- 1人=1人。後船ノ後ヲツケテ中=入ル 奥香又差野

(1) シカゴノ船下 2'5 7 通過 宿泊所=使用中ノ船船=今中 爆雷一大死亡

(2) Chicagoノ船ヲ解リ 滑リ=上リ上タ

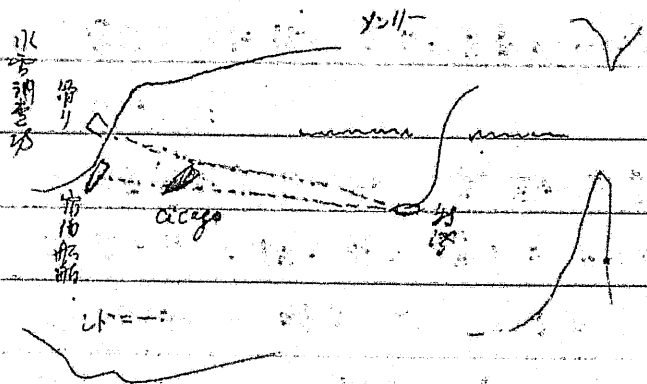
非常調査台1人=上ル 既来タノ奥香カ葉フテムタ 誰カ持ツテ美タカ身ノタカワラス

... 船ヲ解リ

船解リノ時=掛レテ 目下魚管トワカワ

1590

洞ハ龍を救アリレカ 添入。ワカラナカマ



洞ハ一穴子。(6-8) 124. 大箱/ Bed room 7 巻 1 不巻

二二一 121. 1巻 1 之 巻 他 不 巻

海軍 両面野紙

昭和二十年

昭和二十年 10月31日 一〇〇

配布先 軍務局長、軍務局第一課、同第二課

受信者 植松少佐

着信者 植松少佐

主務者 光松一 接介

光松中佐

(九一七号提出)

先白提出済、潜水艦投状、状況、南シ、スミスハットン大佐(逕経特校)

更詳細ナル記録 Historical Records 提供方要求アリ

急於ニ付 日本文ヲ一ツ。特ニ左記 艦ニ 初ニ 詳細ニ 報告スル

(正式要求書 取ハ 一部分 出ス)

12 30, 32, 33, 61, 67, 137, 2 (12E 9-17 附 投状 格 15)

1. 18, 19, 24, 28, 30, 33, 34, 35, 38, 41, 42, 44, 195

198, 181, 182, 362, 364, 12 35, 45, 47, 49, 65, 101

103, 107, 110

(M)

(12)

海軍

合二 廿七 藤野中佐

九月十五日附横須賀米連絡將校ヨリノ
要求ニ對スル回答

第六艦隊司令部主要職員

職	官	氏名
司令長官	海軍中將	侯爵 齋藤 忠重
參謀長	海軍少將	佐々木 半九
參謀(首席)	海軍大佐	井浦 祥二郎
參謀(水雷)	海軍中佐	鳥巢 建之助
參謀(機關)	海軍少佐	井上 勇一郎
參謀(通信)	海軍少佐	阪本 文一
艦隊軍醫長	軍醫大佐	足羽 正伸
艦隊主計長	主計中佐	景山 翠

海軍

三 第六艦隊潜水戦隊司令部主要職員

第十一潜水戦隊

司令官

少將

仁科宏造

參謀

大佐

横田稔

”

少佐

井川一行

”

少佐

浦田正茂

三 伊十四潜ヲ指揮スル各指揮官

(長官)

(司令)

(艦長)

中將 齋藤忠重 | 大佐 有泉龍之助 | 中佐 清水鶴造

海軍

聯合軍最前指揮部

11月1日

宛 中村少将

同封、中村中佐の表=自記、General Willoroby の 斯くの表、新聞紙上=出たもの以上、中村中佐の書翰を通じ、真珠湾海軍ト、同封之本部=公式公表ヲ提出スベキト感ズ。

マニヤ=大佐

新聞通信員曰ク半國=對スル戦争ハ1941年11月11日=始スリト。

東京(AMS) = 1941 和平會議ハる末柳三郎 ワシントン到着の四時、一潜水艦隊は横須賀海軍基地を去り、真珠湾に直行セリ。國際新聞通信員 Howard Handelman は日本の偵察員傳來の報告攻撃の真珠湾に向テ梯進セリ艦隊ヲ送ル。1941年11月11日以後の物理的ハ戦争始メタリと報ず。本記事は帝國船隊ニホリ、真珠湾に派遣セルハ12隻乃至15隻の潜水艦ヲ指揮セリ中村中佐の情報と得ル日本記者に依リ、廣くは昨日付の5月4日なり。中國は後刻の戰ハに戰ヒセリ、國人ハアリソク沈没セリ日本海軍ニ電報セル潜水艦指揮官なり。當時日本の政治的状況に危殆ナリ日本海軍、末柳のワシントン到着以前に於テハ和平交渉の運命否ナリト決セリ。日本潜水艦隊ハ三つの目的ヲ有セリ。一は偵察、二は中型潜水艦の攻撃位置の奪入、三は空中攻撃の戦果觀察なり。潜水艦は、八月七日以前にハワイ海峽中ニあり日本に報道ト電報セリとの報告あり。